

<p style="text-align: center;">国語Ⅲ （ JapaneseⅢ）</p>	<p style="text-align: center;">3 年 ・ 通 年 ・ 2 単 位 ・ 必 修</p> <p style="text-align: center;">5 学 科 共 通 担 当 松 井 真 希 子</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語学習の必要性・重要性を「読む・聞く・書く・話す」活動の実践を通じて理解し、読解力及び表現力の向上を図るとともに、自分で「調べる」「考える」「工夫する」能力を高める。 ・ 国語常識を習得するとともに、言語感覚を豊かにし、広く国語を尊重する態度を養う。 		
<p>〔講義の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書教材を主に活用して理解する能力、表現する能力の実践、トレーニングを行うとともに、副教材その他を活用して社会人として通用する国語常識、国語運用能力を身に付ける。 ・ 主体的に国語学習に取り組むことの重要性を認識し、その学習実践を行う。 		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語授業の学習活動の意図を十分に理解し、指示された以上の活動を進んで行うこと。 ・ 基礎的な国語力を習得するとともに、応用的な国語力を身に付ける工夫を行うこと。 ・ 主体的に「書く・話す」等の表現を行い、他者との言語を媒介とする交流を図ること。 ・ 毎時間のはじめに漢字や語句の小テストを実施するので、準備をすること。 ・ 国語Ⅲはすべての科目の基礎であり、応用へと結びつく科目であるとともに、社会人として不可欠な常識を学ぶという視点から、日常生活における言語活動をも視野に置き、そのために必要となる学習を進めること。 		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 国語常識に関する基礎知識を習得し応用できる、評論を正確に読解できる。</p> <p>前期末試験： 国語常識に関する基本的知識を習得し応用できる、小説を正確に読解できる。</p> <p>後期中間試験： 国語常識に関する基礎知識を習得し応用できる、評論を的確に読解し応用できる。</p> <p>学年末試験： 国語常識に関する基本的知識を習得し応用できる、小説を的確に読解し応用できる。</p> <p style="padding-left: 2em;">言語表現に関する知識を習得し応用できる、国語総合力を身に付けて応用できる。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績(70%)</p> <p>学習活動の状況及びその成果（小テスト、課題、音読、発表、質疑応答その他 30%）を加え、総合的に評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「精選現代文 B」明治書院</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「新版高校漢字必携」第一学習社、「新国語便覧」第一学習社、独自教材</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>国語Ⅰ、国語Ⅱ、人文科学総合Ⅰ</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	この科目の特色、受講心得	
第2週	グローバリゼーションの光と影 1	漢字小テスト① 評論の読解① 予習プリント	
第3週	グローバリゼーションの光と影 2	語句小テスト① 評論の読解② まとめ	
第4週	檸檬 1	漢字テスト② 小説の読解① 予習プリント	
第5週	檸檬 2	語句小テスト② 小説の読解②	
第6週	檸檬 3	漢字テスト③ 小説の読解③ 意見交換	
第7週	檸檬 4	語句小テスト③ 小説の読解④ まとめ	
第8週	異文化理解 1	前期中間試験の見直し 評論の読解① 予習プリント	
第9週	異文化理解 2	漢字小テスト④ 評論の読解②	
第10週	異文化理解 3	語句小テスト④ 評論の読解③ まとめ	
第11週	異文化理解 4	漢字テスト⑤ 評論の読解④ 要約課題	
第12週	兵隊宿 1	語句小テスト⑤ 小説の読解① 予習プリント	
第13週	兵隊宿 2	漢字テスト⑥ 小説の読解②	
第14週	兵隊宿 3	語句小テスト⑥ 小説の読解③ 意見交換	
第15週	兵隊宿 4	小説の読解④ 作文課題	
前期末試験			
第16週	「名付け」の精神史 1	前期末試験の見直し 評論の読解① 予習プリント	
第17週	「名付け」の精神史 2	漢字小テスト⑦ 評論の読解②	
第18週	「名付け」の精神史 3	語句小テスト⑦ 評論の読解③	
第19週	舞姫 1	漢字小テスト⑧ 小説の読解① 予習プリント 読解プリント	
第20週	舞姫 2	語句小テスト⑧ 小説の読解② 読解プリント	
第21週	舞姫 3	漢字小テスト⑨ 小説の読解③ 読解プリント 意見交換	
第22週	舞姫 4	語句小テスト⑨ 小説の読解④ 読解プリント まとめ 相互評価	
第23週	「である」ことと「する」こと 1	後期中間試験の見直し 評論の読解① 予習プリント	
第24週	「である」ことと「する」こと 2	漢字小テスト⑩ 評論の読解②	
第25週	「である」ことと「する」こと 3	語句小テスト⑩ 評論の読解③	
第26週	「である」ことと「する」こと 4	漢字小テスト⑪ 評論の読解④	
第27週	私の個人主義 1	語句小テスト⑪ 評論の読解① 予習プリント	
第28週	私の個人主義 2	漢字小テスト⑫ 評論の読解②	
第29週	私の個人主義 3	語句小テスト⑫ 評論の読解③ 意見交換 相互評価	
第30週	私の個人主義 4	評論の読解④ まとめ	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">歴 史Ⅱ （ HistoryⅡ ）</p>	<p style="text-align: center;">3 年 ・ 通 年 ・ 2 単 位 ・ 必 修 電 気 工 学 科 ・ 担 当 桑 原 英 之</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>グローバル化した現代社会の中で生きていく上で、世界史についての知識は必要不可欠のものとなりつつある。この授業では、世界史を学ぶことを通して、人類登場から数百万年という途方もない年月の流れの中で現在の私たちを理解し、現在の日本にいる私たちとは価値観も世界観もまったく違っていった人々について想像力を働かせる力を養うことを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>歴史の学習で大事なことは、なぜ過去にそのような出来事が起こったのか、歴史的背景をしっかりと捉えて理解することである。したがってこの講義では、その地域と時代にどのような制度、文化、社会、宗教があったのかを踏まえることで、歴史的事実を点としてではなく、複眼的視点で立体的に捉えてながら、近代主権国家成立までの歴史の流れを理解する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配布するプリントは必ず各自ファイルすること。定期試験勉強で必要となる。 ・ 現代日本にいる私たちも世界の歴史と連動していることを意識する。 ・ 現在の世界の動きや情勢にも敏感であってほしい。 		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：先史時代の理解、古代オリエント文明、古代ギリシア文明成立を理解する。 前期末試験：古代ローマ文明、古代インド文明、古代中国文明成立を理解する 後期中間試験：東アジア・内陸アジア世界形成、イスラーム世界形成を理解する 学年末試験：ヨーロッパ世界の形成、近代ヨーロッパ世界の成立を理解する</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績（80％）＋レポート点（20％）</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「高校世界史 B」，山川出版社，著者；佐藤次高・木村靖二・岸本美緒</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「明解世界史図説 エスカリエ 四訂版」 帝国書院 「補助教材：配布プリント」</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>「地理」「歴史Ⅰ（日本史）」「政治・経済」と関連が深い。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	先史時代	人類の生物学的進化の過程と文化の発展について説明する。	
第2週	古代オリエント文明1	メソポタミア・エジプト両文明の成立と相違点について説明する。	
第3週	古代オリエント文明2	インド＝ヨーロッパ語族系民族の展開について説明する	
第4週	ギリシア文明	ギリシア文明とポリス社会成立について説明する	
第5週	ギリシア世界2	ギリシア民主政の歩みを説明する。	
第6週	ギリシア世界3	ペロポネソス戦争の意義とギリシア文化について説明する。	
第7週	共和制ローマ	ローマ世界成立と共和制について説明する。	
第8週	帝政ローマ	帝政ローマの展開と仕組みを説明する。	
第9週	キリスト教の成立と発展	キリスト教の成立とその後の展開を説明する。	
第10週	インド古典文明	インド古典文明の成立について説明する。	
第11週	古代インドと宗教と文化	仏教、バラモン教、ジャイナ教の成立と展開を説明する。	
第12週	インドの王朝と東南アジア	インドの王朝と東南アジアの文明を説明する。	
第13週	中国の古典文明	中国の古典文明と殷、周の成立までを説明する。	
第14週	中国の古代国家	春秋戦国時代から漢の成立までを説明する。	
第15週	中国の古代思想	儒教、老荘思想などの中国思想について説明する。	
前期期末試験			
第16週	中国の分裂	諸民族の侵入とそれにもなう中国の分裂について説明する。	
第17週	宋の中国統治と朱子学	宗の成立と朱子学の意義について説明する。	
第18週	空前の大帝国	チンギス＝ハンによるモンゴル帝国と元の成立について説明する。	
第19週	イスラム世界	イスラム帝国成立と諸王朝の展開について説明する。	
第20週	イスラム教	イスラム教の成立と海外伝播について説明する。	
第21週	ヨーロッパ世界の成り立ち	ゲルマン人大移動と東西ローマ分裂後のヨーロッパについて説明する。	
第22週	フランク王国	フランク王国の成立と分裂と、叙任権闘争について説明する。	
第23週	東ヨーロッパ世界	ビザンツ帝国の展開と文化について説明する。	
第24週	十字軍	十字軍の意義と聖地の意味について説明する。	
第25週	西ヨーロッパの変動	十字軍以降の教会の凋落と諸国の展開について説明する。	
第26週	大航海時代	レコンキスタ以降の海外展開の意義を説明する。	
第27週	ルネサンスと宗教改革	中世から近世・近代へと移り変わる転換点の意義を説明する。	
第28週	主権国家の形成	宗教戦争が社会変革へとつながっていく過程を説明する。	
第29週	主権国家の展開	ピューリタン革命と議会政治の成立について説明する。	
第30週	16世紀以降のアジア	オスマン帝国、ティムールなどトルコ、南アジアの動きを説明する。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

政治・経済（Politics and Economics）	3 年・通年・2 単位・必修 5 学科共通 担当 竹原 信也	
〔準学士課程（本科 1-5 年）学習教育目標〕（1）		
〔講義の目的〕 私たちが現在生活している社会について、その仕組み、ルールを学ぶ。単なる暗記科目としてではなく、「生きた」学問として政治・経済を捉える。		
〔講義の概要〕 教科書・ノートを用いた講義を中心にすすめる。適宜、視聴覚教材の利用やグループ活動を行う。前半は主として政治について、後半は、経済と国際社会について学ぶ。		
〔履修上の留意点〕 授業をよく聞くこと。授業とは関係のない私語や携帯の利用は慎むこと。授業の前後に教科書を一読しておくことを奨励する。授業の内容に関連するトピックについて各自色々と考えてみてほしい（授業中の積極的な発言も歓迎）。政治・経済の面白さを実感するためにも、新聞やニュースなどに触れ、政治・経済について関心を寄せて欲しい。		
〔到達目標〕 〈前期中間試験〉 「民主政治」について基礎的事柄を理解している。 「日本国憲法」について基礎的事柄を理解している。 〈前期末試験〉 「基本的人権」について基礎的事柄を理解している。 「政治制度」について基礎的事柄を理解している。 〈後期中間試験〉 「資本主義経済」について基礎的事柄を理解している。 「国民所得と経済成長」「金融・財政」について基礎的事柄を理解している。 〈学年末試験〉 「国際社会」について基礎的事柄を理解している。		
〔評価方法〕 定期試験（70%）、課題・ノート提出・発表・グループワークでの取り組み・小テストを総合的に評価（30%）		
〔教科書〕 『高等学校 政治・経済』改訂版、第一学習社 〔補助教材・参考書〕		
〔関連科目〕 社会科科目全般に関連する。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価＊
第１週	ガイダンス	授業の目的・概要・評価方法を説明する	
第２週	民主政治の基本原則	民主政治の原理と発展について学ぶ	
第３週			
第４週			
第５週	日本国憲法	日本国憲法の成り立ちについて学ぶ 平和主義について学ぶ	
第６週			
第７週			
第８週	前期中間試験解説		
第９週	基本的人権	基本的人権について学ぶ	
第１０週			
第１１週			
第１２週	日本の政治機構	日本の政治制度について学ぶ	
第１３週			
第１４週	「働く」こと	「働く」ことについて考える。	
第１５週			
前期期末試験			
第１６週	経済社会の変容	経済と資本主義経済の発達について学ぶ 資本主義経済の変容と社会主義経済の考え方について学ぶ。	
第１７週			
第１８週	現代経済のしくみ①	経済主体と経済活動について学ぶ。	
第１９週	現代経済のしくみ②	市場経済の機能と限界について学ぶ。	
第２０週			
第２１週	現代経済のしくみ③	経済成長と景気変動について学ぶ。	
第２２週	現代経済のしくみ④	財政の仕組みについて学ぶ。	
第２３週	後期中間試験		
第２４週	現代経済のしくみ⑤	金融と物価の仕組みについて学ぶ	
第２５週	現代経済のしくみ⑥	国際経済の基礎知識を学ぶ。	
第２６週	貿易ゲーム	国際経済を疑似体験する。	
第２７週	国際社会のしくみ①	国際政治の概要について学ぶ	
第２８週	国際社会のしくみ②	第一次世界大戦と国際連盟について学ぶ。	
第２９週	国際社会のしくみ③	第二次世界大戦と大戦後の国際社会について学ぶ。	
第３０週	国際社会のしくみ④	東西冷戦と現代の国際紛争について学ぶ	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

微分積分Ⅱ（CalculusⅡ）		3年・通年・4単位・必修 機械工学科 担当 安田 智之 電気, 電子制御, 情報工学科 担当 名倉 誠 物質化学工学科 担当 市原 亮	
〔準学士課程(本科1-5年) 学習教育目標〕 (2)			
〔講義の目的〕 極限の概念とそれを基礎とする微分法および積分法は、近代になってから完成した数学のうち最も重要な部分とされ、他分野に広く応用されている。これらを2年次の「微分積分Ⅰ」でひととおり学んだ。それらを更に深く学び、数学的なものの見方、考え方をより確実に身に付けることが本講義の目的である。すぐ使える技術としての微分積分の計算力と、後になってじわじわと効いてくる数学の素養を身に付けることになる。			
〔講義の概要〕 前期は、前半で微分法の応用、特に関数の振舞いをより精密に調べる方法や、三角関数や指数関数などよい性質を持つ関数を二次関数や三次関数といった「多項式関数」で近似する方法を学ぶ。後半では細かく分割したものを積み重ねて図形の面積や体積を計算する方法(積分法)をより深く学ぶ。後期は、前半で二変数関数の微分・積分を学ぶ。後半では現象を観測するときに得られる「導関数を含む方程式」から過去や未来を知る方法(微分方程式の解法)を学ぶ。			
〔履修上の留意点〕 最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、出来るだけ具体的な問題(例題)を通して、鉛筆を動かしながら考えていくことを勧めます。最初は細かいことを気にせずに、大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。計算の仕方が分かっただけでも面白いのですが、理論もわかればもっと面白いと思います。そのためには授業中、集中して自分の頭で理解すること。ノートを書くこと。しかし板書を写しただけでは、理解したことにはなりません。自分なりに内容をかみくだいて納得できるまで、頭を働かせることが重要です。そして、練習問題を時間をかけてこつこつと解いていくことが大切です。復習を主とする地道な家庭学習を心がけて下さい。疑問点がある場合には授業中だけでなく、放課後も利用して積極的に担当教員のところまで質問に来て欲しいと思います。			
〔到達目標〕 何となくわかったのでは不十分です。自力で問題が解けなければ意味がありません。教科書の「問題」と「練習問題」、問題集の「A問題」が自力で解けるようになることを最低目標とします。 (前期中間まで) 一変数関数の微分法とその応用を理解し、計算が正確にできること。 (前期末まで) 一変数関数の積分法とその応用を理解し、計算が正確にできること。 (後期中間まで) 二変数関数の微分・積分を理解し、計算が正確にできること。 (学年末まで) 微分方程式の扱い方を理解し、基本的な微分方程式の解き方を身につけること。			
〔評価方法〕 定期試験の結果(60%)を基本とし、課題,小テスト,授業への取り組み(40%)を加えて総合的に評価する。			
〔教科書〕 「新版 微分積分Ⅱ」, 実教出版, 岡本 和夫 編 〔補助教材・参考書〕 「新版 微分積分Ⅱ演習」, 実教出版, 岡本 和夫 編			
〔関連科目〕 2年次に学習した微分・積分の復習を勧める。「微分積分Ⅱ」の内容は、「応用数学α」や「応用数学β」をはじめ、応用物理や各専門科目の基礎となる。			

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	いろいろな関数表示	関数の媒介変数表示, 極座標表示に関する微分法を学ぶ。	
第 2 週	同上	関数の陰関数表示に関する微分法を学ぶ。	
第 3 週	平均値の定理, その応用	連続関数の性質, 不定形の極限値を求める方法を学ぶ。	
第 4 週	テイラーの定理	いろいろな関数を多項式で近似する方法を学ぶ。	
第 5 週	テイラーの定理の応用	関数の極値を, 増減表を用いなくて求める方法を学ぶ。	
第 6 週	リーマン積分	面積を微小な面積の和の極限値として求める考え方を学ぶ。	
第 7 週	微分積分法の基本定理	定積分とリーマン積分が同じ値をもたらすことを理解する。	
第 8 週	不定積分	微分積分 I のものより複雑な関数の不定積分を求める。	
第 9 週	定積分の応用	いろいろな関数表示で表された図形の面積を求める。	
第 10 週	曲線の長さ	いろいろな関数表示で表された曲線の長さを求める。	
第 11 週	立体の体積	立体の体積の求め方, 広い意味での定積分を学ぶ。	
第 12 週	2 変数関数, そのグラフ	二つの変数をもつ関数とその偏導関数について学ぶ。	
第 13 週	極限値と偏導関数	二変数関数の極限値, 偏導関数を計算する。	
第 14 週	合成関数の偏導関数	二変数関数の合成関数について偏導関数を計算する。	
第 15 週	全微分と接平面	二変数関数の近似について学ぶ。	
前期期末試験			
第 16 週	極値問題	二変数関数の極値の求め方について学ぶ。	
第 17 週	陰関数の微分法	陰関数定理を学び, 陰関数の極値の求め方を学ぶ。	
第 18 週	条件付き極値問題	ある条件のもとでの二変数関数の極値を求め方を学ぶ。	
第 19 週	2 重積分の定義	重積分の定義とその計算法を学ぶ。	
第 20 週	累次積分と順序交換	積分領域を図示して, 積分の順序を変更して計算する。	
第 21 週	2 重積分と座標変換	極座標など, 座標系をかえて積分する方法を学ぶ。	
第 22 週	体積, ガウス型積分	立体の体積を, 重積分を利用して求める。確率統計への準備。	
第 23 週	重心とモーメント	ものの重心の求め方, その応用を学ぶ。	
第 24 週	微分方程式とその解	自然現象は導関数を式の中に含んだ方程式で表現できる。	
第 25 週	変数分離形	二つの変数が積の形で分離している型の微分方程式を解く。	
第 26 週	同次形	二つの変数の次数が同じである型の微分方程式を解く。	
第 27 週	線形微分方程式	未知関数とその導関数の一次式である型のものを解く。	
第 28 週	2 階微分方程式 (1)	1 階微分方程式に直して 2 階微分方程式を解く。	
第 29 週	2 階微分方程式 (2)	係数が定数であるような型の 2 階線形微分方程式を解く	
第 30 週	2 階微分方程式 (3)	微分方程式の連立方程式, 非定数係数の微分方程式を解く。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成)

代数・幾何Ⅱ (Algebra and Geometry Ⅱ)		3年・後期・1単位・必修 機械工学科 担当 作間 美穂 電気工学科 担当 梅本 悠莉子 情報工学科 担当 荒金 憲一		
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)				
〔講義の目的〕 数学はあらゆる科学の基礎になっており、自然科学はもとより社会科学でも数学の知識を必要とすることが多い。ここでは基本的な数学的道具である行列と行列式を学び、数学的思考力を養うと共に十分な計算力を培う。				
〔講義の概要〕 2年次の「代数・幾何Ⅰ」で学んだベクトルや行列・行列式の知識を基礎として講義は行われる。まず、ベクトルの内積や外積について復習し、「行列式」の図形的意味について勉強する。次に、座標平面上の点の一次変換（線形変換）を行列表示し合成変換や逆変換と行列の積や逆行列との関係を学ぶ。さらに、固有値を求めて「行列の対角化」と呼ばれる行列の標準化を考える。				
〔履修上の留意点〕 数学を学ぶときは、最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、出来るだけ具体的な問題(例題)を通して、手を動かしながら考えていくことを勧めます。細かいことばかり気にせずに大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。計算の仕方、そして理論が分かってくれば数学が非常に面白くなると思います。そのためには授業中、集中して自分の手を動かすことが大事です。しかしノートを写しただけでは理解したことにはなりません。自分なりに内容をかみくだいて納得できるまで、頭を働かせることが重要です。そして、宿題で出される練習問題に時間をかけてこつこつと解いていくことが大切です。疑問点がある場合には授業中だけでなく、放課後も利用して積極的に担当教員まで質問に来て下さい。難しいと思うことも以上のような取り組みを続けていけば、だんだん易しくなってきます。				
〔到達目標〕 ① 何となく理解するのではなく、自力で問題が解けなければ意味がありません。 ② 教科書の例題と問題および問題集のA問題が完全に解けるようにして下さい。 前期中間試験：行列式の図形的意味を理解し、三角形の面積や四面体の体積を計算する。 座標平面上の点の一次変換を行列表示し、様々な2次曲線を標準形で表す。 前期末試験：行列（すなわち一次変換）の固有値と固有ベクトルを求めて行列を対角化する。 さらに、その応用として行列の冪乗を計算する。				
〔評価方法〕 定期試験の結果(70%)を基本とし、これに小テスト・レポート・授業への取り組み(30%)を加えて総合的に評価する。				
〔教科書〕 「新版 線形代数」、実教出版、岡本 和夫 監修 〔補助教材・参考書〕 「新版 線形代数演習」、実教出版、岡本 和夫 監修				
〔関連科目〕 1年次と2年次で学んだ数学、特に代数・幾何Ⅰで学んだ考え方が基礎となる。また本講義で学ぶ内容は応用数学 α、応用数学 β をはじめ、各専門科目の基礎となる。				

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	行列式の図形的意味(1)	平面ベクトルの内積、空間ベクトルの外積を復習し、平行四辺形の面積と平行六面体の体積を計算する。	
第2週	行列式の図形的意味(2)	ベクトルの1次独立・1次従属と、行列式による判定法を学ぶ。	
第3週	1次変換（線形変換）	座標平面上の点の対称移動や回転移動を行列表示する。	
第4週	合成変換と逆変換	1次変換の合成変換と逆変換について学ぶ。	
第5週	1次変換の応用(1)	1次変換の線形性を学び、座標平面上の直線を1次変換する。	
第6週	1次変換の応用(2)	座標平面上の2次曲線を1次変換し、その標準形を求める。	
第7週	1次変換の応用(3)	空間図形への応用を考える。特に座標変換（重積分の変数変換）と関連について意識する。	
第8週	まとめと演習		
第9週	行列の固有値と固有ベクトル(1)	2×2 行列の固有値と固有ベクトルを求める。	
第10週	行列の固有値と固有ベクトル(2)	3×3 行列の固有値と固有ベクトルを求める。	
第11週	正方行列の対角化	2×2 行列と 3×3 行列を対角化する。	
第12週	対称行列の対角化	対称行列を直交行列によって対角化する。	
第13週	対角化の応用	行列の n 乗を計算する。	
第14週	2次形式の標準化	行列を用いて2次形式を標準化する。	
第15週	まとめと演習		
前期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

<p style="text-align: center;">保健・体育Ⅲ (Health and Physical Education Ⅲ)</p>	<p style="text-align: center;">3年・通年・2単位・必修 機械、電気、電子制御、情報工学科 ：森 弘暢、竹村匡弥 物質化学工学科：森 弘暢</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動実践を通して、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図り、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 		
<p>〔講義の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力を高め、運動を楽しむ態度を育てるために、各種の運動を実践し、競技ごとの技術やルール、社会性、身体に関する知識を学ぶ。 		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に応じて運動技能を高め、体力の保持増進につとめること、また、自己の健康状態を把握し、改善していくための方法を身につけるとともに、スポーツ文化への理解をとおして豊かなスポーツライフの確立をめざしてほしい。 		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動技術に関する基礎的な技能及び知識を身につけ、運動に親しむ態度を養う。また、自己の体力を知り、高めるための方法を追求できるようにする。 		
<p>〔評価方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業時の課題への取り組み状況（60%）、運動技術及び知識の習熟度（40%）を総合して評価する。 		
<p>〔教科書〕 『保健体育概論改訂増補版』近畿地区高専体育研究会編、晃洋書房</p> <p>〔補助教材・参考書〕 『アクティブスポーツ【総合版】』、大修館書店</p>		
<p>〔関連科目〕</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第 1 週	体力・運動能力調査①	文部科学省が定める「新体力テスト」の実施。	
第 2 週	体力・運動能力調査②	同上	
第 3 週	体力・運動能力調査③	同上	
第 4 週	ソフトボール①	ソフトボールのルールを知り、基本的技術を習得することで簡易ゲームができるようにする。	
第 5 週	ソフトボール②	同上	
第 6 週	ソフトボール③	これまでに習得した技能を活かし、ゲームができるようにする。	
第 7 週	バレーボール①	これまでに習得した個々の技能を活かし、チームとしての攻撃ができるようにする。	
第 8 週	バレーボール②	同上	
第 9 週	バレーボール③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 10 週	水 泳①	水の特性を理解して泳法の練習を行うとともに、ウォーター・スポーツを体験することにより、その楽しみに触れる。	
第 11 週	水 泳②	同上	
第 12 週	水 泳③	同上	
第 13 週	テニス①	テニスのルールを知り、基本的技術を習得する。	
第 14 週	テニス②	これまでに習得した技能を活かし、ダブルスでのゲームができるようにする。	
第 15 週	テニス③	同上	
第 16 週	バドミントン①	これまで習得した技能をもとに、ダブルスでのコンビネーションプレーができるようにする。	
第 17 週	バドミントン②	これまでに習得した技能を活かし、ダブルスのゲームを行う。	
第 18 週	バドミントン③	同上	
第 19 週	バスケットボール①	これまで習熟した技術をもとに、組織的なコンビネーションプレーをできるようにする。	
第 20 週	バスケットボール②	同上	
第 21 週	バスケットボール③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 22 週	サッカー①	これまで習得した技能をもとに、組織的なコンビネーションプレーをできるようにする。	
第 23 週	サッカー②	同上	
第 24 週	サッカー③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 25 週	選択制①	種目を選択し、練習からゲームの実施までを自主的にできるようにする。	
第 26 週	選択制②	同上	
第 27 週	選択制③	同上	
第 28 週	選択制④	同上	
第 29 週	選択制⑤	同上	
第 30 週	選択制⑥	同上	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">英語 III (English III)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・2 単位・必修 5 学科共通・担当 西川 幸余</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>本講義は、学生が将来英語の論文を読み書きするための基礎づくりとして、大学入試で扱われる程度の文法と語彙、及び読解力の増強を目標とする。</p> <p>英語を読み、情報や様々な考えを的確に理解し自己の考えを深める能力を伸ばすだけでなく、既習文法知識の活用を促す「聞く」、「話す」、「書く」言語活動を通じて、更なる英語運用能力の向上を目指す。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>上記の目標を達成するために、1・2年で学習した内容の定着を図りながら、教員が指定する課題をもとに、文法、語彙、及び読解力の増強のための学習活動を行う。文法の復習だけでなく、その知識を活用し、簡単な英語で自分の考えや意見を話したり、書いたりする言語活動を取り入れる。また、英語の発音に慣れ親しむために、リスニング問題やディクテーションに取り組み、聞く力を養う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>課題が出されるので必ず準備してから授業に臨むこと。授業では、英語4技能の「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」力を伸ばすための言語活動を行うので、積極的に取り組むこと。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：1) 時制 2) 無生物主語 3) 動名詞 前期末試験：1) 分詞構文 2) 関係詞 3) 不定詞 4) 仮定法 後期中間試験：1) 接続詞 2) 代名詞 3) 助動詞 後期末試験：1) 完了 2) イディオム 3) 強調 4) 比較</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績(60%)に課題点(20%)、授業態度点(ノート作成、ペアワークでの取り組み、言語活動ワークシート記述)(20%)を含め、総合評価する。定期試験ごとに提示する到達目標を各々達成することで単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>教科書名：「トランスファー英語総合問題演習 Course E」 出版社 桐原書店、桐原書店編集部 編</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>参考書名：「英語の構文 150 UPGRADED 99 Lessons」 出版社 美誠社、著者 鷹家秀史(2年次購入済み) 「ワードマイスター英単語・熟語 4500」 出版社 第一学習者(1年次購入済み)</p> <p>補助教材：配布プリント</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>英文読解Ⅱ</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	Introduction	講義の説明, 教材の提示。	
第2週	Unit 1	Reading「謎の車の正体」速読と読解, 語彙の説明	
第3週	Unit 1	Listening exercise, 文法実践問題「時制」	
第4週	Unit 2	Reading「天然塩の重要性」速読と読解, 語彙の説明	
第5週	Unit 2	Listening exercise, 文法実践問題「無生物主語」	
第6週	Unit 3	Reading「地産地消のすすめ」速読と読解, 語彙の説明	
第7週	Unit 3	Listening exercise, 文法実践問題「動名詞」	
第8週	Unit 4	Reading「ハイテクのおばあちゃん」速読と読解, 語彙の説明	
第9週	Unit 4	Listening exercise, 文法実践問題「分詞構文」	
第10週	Unit 5	Reading「世界言語としての英語」速読と読解, 語彙の説明	
第11週	Unit 5	Listening exercise, 文法実践問題「関係詞」	
第12週	Unit 6	Reading「気候変動と文明」速読と読解, 語彙の説明	
第13週	Unit 6	Listening exercise, 文法実践問題「不定詞」	
第14週	Unit 7	Reading「電子通信の産物」速読と読解, 語彙の説明	
第15週	Unit 7	Listening exercise, 文法実践問題「仮定法」	
前期期末試験			
第16週	Unit 8	Reading「微笑みと笑い」速読と読解, 語彙の説明	
第17週	Unit 8	Listening exercise, 文法実践問題「接続詞」	
第18週	Unit 9	Reading「夏季英語講座の案内」速読と読解, 語彙の説明	
第19週	Unit 9	Listening exercise, 文法実践問題「代名詞」	
第20週	Unit 10	Reading「子供の睡眠時間の変化」速読と読解, 語彙の説明	
第21週	Unit 10	Listening exercise, 文法実践問題「助動詞」	
第22週	Unit 11	Reading「英国の女性参政権をめぐる闘争」速読と読解, 語彙の説明	
第23週	Unit 11	Listening exercise, 文法実践問題「完了」	
第24週	Unit 12	Reading「バナナ貿易が環境に与える影響」速読と読解, 語彙の説明	
第25週	Unit 12	Listening exercise, 文法実践問題「イディオム」	
第26週	Unit 13	Reading「触覚と技術進歩」速読と読解, 語彙の説明	
第27週	Unit 13	Listening exercise, 文法実践問題「強調」	
第28週	Unit 14	Reading「森林減少と日本の責任」速読と読解, 語彙の説明	
第29週	Unit 14	Listening exercise, 文法実践問題「比較」	
第30週	Unit 15	Reading「都市のエコ化方法」速読と読解, 語彙の説明	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

英文読解Ⅱ (Intensive English Ⅱ)		3年 ・ 通年 ・ 1単位 ・ 必修 5学科共通 担当 後藤 朗子
〔準学士課程 (本科1ー5年) 学習教育目標 (3)〕	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕	〔JABEE 基準〕
〔講義の目標〕 本講義は、英語力の指標として重要視されている TOEIC のスコアアップを目的とし、特にリスニング力向上を目指す。スコア 400 点以上を取るために必要な、リスニング問題における語彙・会話表現・聴解力を高める。		
〔講義の概要〕 TOEIC リスニング問題形式に慣れ、出題傾向を知り、上記の目標を達成するために、リスニング問題をできるだけ数多くこなし、解答のコツを解説する。また、リスニング問題によく使用される、語彙・表現を確認し、音読する。毎回リスニングと書き取りを行なう。		
〔履修上の留意点〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回提出課題がある。説明を聴いて理解したことを提出プリントに必ず記入する。 ・ リスニングには、最初は特に集中力が必要となる。リスニング問題に取り組む態勢を整えること。 ・ 授業中以外でも、TOEIC のためのリスニング学習時間を持つことが大事である。 		
〔到達目標〕 TOEIC400 点以上を取ることを目標とする。 前期中間試験： リスニング問題形式に慣れる。英語を聴くことを積み重ね、初歩的な英語を聴き取ることができる。 前期末試験： 写真描写・質疑応答問題の傾向をつかみ、使用される基本的な語彙・表現を聴き取ることができる。 後期中間試験： 短い会話問題の傾向をつかみ、使用される基本的な語彙・表現を聴き取ることができる。 学年末試験： 説明問題の傾向をつかみ、比較的長い文のトピック・内容を聴いて把握できる。		
〔評価方法〕 定期試験 (50%)、毎回の提出課題 (35%)・小テスト(15%)		
〔教科書〕 Practical Situations for the TOEIC Test Listening (成美堂)		
〔補助教材〕		
〔関連科目〕 英語Ⅲ		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第1週	Introduction	ガイダンス	
第2週	Unit 1	Ceremony 挨拶	
第3週	Unit 2	School Life 自己紹介	
第4週	Unit 3	Transportation 交通機関	
第5週	Unit 4	Outdoor Activities 時間	
第6週	Unit 5	Weather 天気	
第7週	Review Test 1	Unit 1-5 の総まとめと確認小テスト	
第8週	Mid-Term Examination of 1st Semester 前期中間試験		
第9週	Unit 6	Holiday Plans 電話の会話	
第10週	Unit 7	Resort Area 依頼	
第11週	Unit 8	Directions 場所案内	
第12週	Unit 9	Job Experience 資格・職業経験	
第13週	Unit 10	Summer Sale 買い物	
第14週	Review Test 2	Unit 6-10 の総まとめと確認小テスト	
第15週	Term Examination of 1st Semester 前期末試験		
第16週	Introduction	ガイダンス	
第17週	Unit 11	Restaurant 注文	
第18週	Unit 12	Arts & Entertainment 感情	
第19週	Unit 13	Sports Events スポーツ	
第20週	Unit 14	Having a Party 感謝の気持ち	
第21週	Unit 15	Health 病気	
第22週	Review Test 3	Unit 11-15 の総まとめと確認小テスト	
第23週	Mid-Term Examination of 2nd Semester 後期中間試験		
第24週	Unit 16	Christmas 提案	
第25週	Unit 17	Cleanup 助けを求める・与える	
第26週	Unit 18	Our Traditions & Customs 人物描写・位置関係の説明	
第27週	Unit 19	Examinations 条件・日程	
第28週	Unit 20	Housing 数字と交渉	
第29週	Review Test 4	Unit 16-20の総まとめと確認小テスト	
第30週	Final Examination 学年末試験		

* 4 : 完全に理解した, 3 : はほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

実用英語 I (Practical English I)		3年～5年・通年・1単位・選択 5学科共通・担当 金澤 直志
[準学士課程(本科1 - 5年) 学習教育目標] (3)	[システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標]	[JABEE 基準]
[講義の目的] 従来のカリキュラムでは評価していなかった外部の資格試験に対し、学生の資格試験への取り組み及び積極的な受験を促す、あるいは、短期・長期の海外研修、国際交流プログラム等への積極的な参加を促すことで、英語学習への意欲・英語でのコミュニケーションに対する意識を高め、主体的、創造的な学習態度を育成し、学生の優れた英語能力を一層伸ばすことを目的とする。		
[講義の概要] 技能審査の成果の単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により、制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。学校外での学修を 30 単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。		
[履修上の留意点] 「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEICについては、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。 海外研修、国際交流プログラム等への参加については、一定の研修内容及び研修時間等を満たさなければ単位認定の対象とならない場合があるので、事前に確認すること。		
[到達目標] 以下のいずれかを目標とする <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語検定試験準2級合格以上 ・ TOEIC スコア 400 点以上 ・ 海外における5日間以上にわたり合計30時間以上の研修を義務付けられたプログラムへの参加 		
[評価方法] 学修の基準となる、上記「到達目標」を到達することにより、単位の認定を行う。ただし、TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）をレポート等の提出をもって、上記のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。 海外研修、国際交流プログラム等への参加については、研修内容及び研修時間等を示すレポート、証明書等の提出をもって単位認定するものとする。		
[教科書] 特に指定はない。		
[補助教材・参考書] ALC Net Academy 「初中級コース」「Power Words」		
[関連科目] 英語、英文読解、英会話（3年）		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価
第1週			
第2週		単位認定に関して 申請方法 ◎英語検定試験準2級合格以上、または TOEIC スコア 400 点以上 例年1月初旬に申込期間を設定している。 学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 必ず、成績の証明が必要なので、成績証明のコピーを 申込用紙に添えて学生課教務係に提出すること。 ◎海外における5日間以上にわたり合計30時間以上の研修を義務付けられたプログラムへの参加 プログラム終了後に、主催者が発行する修了証明書等を 学生課教務係に提出すること。	
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週			
第10週			
第11週			
第12週			
第13週			
第14週			
第15週			
第16週			
第17週			
第18週			
第19週			
第20週			
第21週			
第22週			
第23週			
第24週			
第25週			
第26週			
第27週			
第28週			
第29週			
第30週			
学年末試験			

*4：完全に理解した、3：ほぼ理解した、2：やや理解できた、1：ほとんど理解できなかった、0：全く理解できなかった

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

応用物理 I (Advanced Physics I)	3 年・通年・2 単位・必修 M・E・I 担当 新野 康彦	
〔準学士課程(本科 1-5 年)学習教育目標〕 (2)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>近年急激に進歩した技術は、個人の能力を飛躍的に増大してくれました。最新の技術は我々の生活の隅々に入り込む一方で、あらゆる装置のブラックボックス化を招いています。このような世界では個人の無知やミス、悪意と言ったもので社会に対して重大な悪影響を与える事も可能です。このような時代・世界において、特に技術者が責任ある行動や決断を行うためには、背景にある科学的原理を理解する事によって、自分自身の理解力、洞察力を高める他に方法はありません。</p> <p>3 年次の物理もあらゆる専門科目の基礎であると同時に、科学の基本的方法を学ぶことを目的としています。具体的には</p> <p>(1) 自然現象を数式を使って理解する(数理解)こと、</p> <p>(2) 物理学的理解が自然界のいろいろな現象を統一的に説明できること(普遍性)を理解すること、</p> <p>です。そのためには、科学の理解とは単なる問題の解答を見つける能力とは異なる事を認識し、創発的思考や論理的考察、自ら間違いを訂正する能力を訓練してもらいたいと思います。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>3 年次の物理では、電磁気、量子・原子物理といった、身近な現象から最先端に近い分野までの広範囲な現象を学んだ後、力学の微積分を用いた取り扱いについて振動を中心に学習します。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>応用物理 I は専門科目の基礎に当たるので、「理解する」ということがどういうことかを理解できないと困ります。したがって授業中にこちらから質問を投げかけますので、答えられるように授業の内容を「理解」していくことが重要です。授業中には、学生の発言に関し配点を与える場合もあります。講義時間は限られていますので、演習問題を解くなどの復習を必ずして一週間毎に理解を確認してください。</p> <p>授業内容は予定であり、授業の進捗状況や学生の理解度を考慮して授業で扱わない事もあります。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間：電流、電気と磁気の基本法則を理解し定量的に扱えること。</p> <p>前期期末：前期量子論、物質のエネルギーなど、現代科学の初歩の知識が定着すること。</p> <p>後期中間：微分方程式としての運動方程式を理解し、落体等の初歩的な問題が解けること。</p> <p>学年末：振動に関する運動方程式をたて、その解を求め、物理学意味を理解できるようになること。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>基本的に定期試験(70%)と小テスト、課題レポート(基本的に宿題とします)、授業中の問題解答や質疑応答への積極的参加などの授業中の取り組み(30%)によって総合的に評価します。ただし、本科目への取り組み姿勢に問題がある場合(講義中の授業態度や提出物の提出状況が著しく悪い場合など)は減点する事があります。また、長期欠席による成績不振など、特別の場合は、補講やレポートを考慮する場合があります。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>高専の物理(第 5 版)(森北出版)、高専の物理問題集(第 3 版)(森北出版)、 基礎物理学(第 4 版)(学術図書出版社)</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>フォトサイエンス物理図解(数研出版)、その他配布プリント</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕</p> <p>1, 2 年次の物理分野と数学の最低限の知識は仮定します。しかしながら数学的取扱いに関しては可能な限り復習を含めて授業をすすめる予定です。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	導入, 概観	講義方法, 授業方法, 成績評価補法の説明を行う。	
第2週	静電場	電場, ガウスの法則, 電位について学ぶ。	
第3週	電流と電圧	電流, 電圧, オームの法則, 抵抗について学ぶ。	
第4週	コンデンサー	コンデンサーの原理と計算法について理解する。	
第5週	同上	コンデンサーのエネルギーについて理解する。	
第6週	エネルギーと電力	ジュール熱と電力について学ぶ。	
第7週	磁場	磁石による磁場, 電流の作る磁界について学ぶ。	
第8週	同上	電流が磁場から受ける力, ローレンツ力について学ぶ。	
第9週	電磁誘導	電磁誘導の法則を理解する。	
第10週	同上	電磁誘導の法則の応用を理解する。	
第11週	現代物理	光の粒子性, 物質の波動性を理解する。	
第12週	同上	コンプトン散乱とその意味を理解する。	
第13週	同上	ボーアの原子模型を学ぶ。	
第14週	同上	同上	
第15週	同上	放射線と質量エネルギーを理解する。	
前期期末試験			
第16週	ベクトル(復習)	ベクトルと座標の関係を復習する。	
第17週	微分と積分(復習)	簡単な微分, 積分の計算方法を復習する。	
第18週	運動の法則	ニュートンの三法則の意味を学ぶ。	
第19週	同上	重心の定義を理解する。	
第20週	同上	位置, 速度, 加速度とこれらの関係について理解する。	
第21週	落下運動	落体の運動, 水平投射, 斜方投射の問題を解けるようにする。	
第22週	抵抗力を受ける運動	抵抗のある運動について解析する。	
第23週	導体中の電子の運動	導体中の電子の運動と抵抗運動の対比から電流を理解する。	
第24週	単振動	単振動の方程式と解析のための数学的な準備を行う。	
第25週	同上	単振動の運動方程式を解く。	
第26週	減衰振動	減衰振動の運動方程式をたてる。	
第27週	同上	運動方程式の解と運動の解析を行う。	
第28週	強制振動	強制振動の運動方程式をたて, 解を求める。	
第29週	共振	強制振動の解から共振の条件を理解する。	
第30週	LCR 回路	LCR 回路を振動の運動方程式との対応から理解する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

電気工学演習 (Exercises in Electrical Engineering)		3 年・通年・2 単位・必修 電気工学科・担当 土井 滋貴、藤井 治久	
[準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標] (4)			
[講義の目的] 本演習では 2 年次・3 年次で学ぶ電磁気学・電気回路の内容を完全に理解し身につけることを目的とする。また、これらを理論的に学ぶための基礎となる電気数学を合わせて学習する。電気工学とは電磁気学・電気回路を基礎とした総合的な学問であることを理解する。			
[講義の概要] 電磁気学演習 (8 週) 電気回路演習 (14 週) 電気数学 (8 週)			
[履修上の留意点] 2 年次の電磁気学Ⅰ・電気回路Ⅰを理解していることが前提である。また、3 年次に平行して授業がある電磁気学Ⅱ・電気回路Ⅱについても演習を行うので、授業で不明であった点は積極的に質問すること。			
[到達目標] 演習を通じて電気工学の基礎である電磁気学・電気回路を理解する。			
[評価方法] 試験結果 (80%) と課題 (20%) で総合的に評価する。			
[教科書] プリントを配布して、講義・演習を行う。 [補助教材・参考書]			
[関連科目] 電磁気学系科目・電気回路系科目			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	電磁気学演習	クーロンの法則と電界強度	
第2週	電磁気学演習	クーロンの法則と電界強度	
第3週	電磁気学演習	クーロンの法則と電界強度	
第4週	電磁気学演習	電束およびガウスの法則	
第5週	電磁気学演習	電束およびガウスの法則	
第6週	電磁気学演習	電束およびガウスの法則	
第7週	電磁気学演習	静電容量と誘電体	
第8週	電磁気学演習	静電容量と誘電体	
第9週	電気回路演習	複素数の四則演算、正弦波交流の複素数表示	
第10週	電気回路演習	記号法を用いた直列回路、並列回路、直並列回路の演習	
第11週	電気回路演習	網目法	
第12週	電気回路演習	接続点法	
第13週	電気回路演習	等価電圧源と等価電流源	
第14週	電気回路演習	重ね合わせの理、テブナンの定理	
第15週	電気回路演習	ノートンの定理、ミルマンの定理	
前期期末試験			
第16週	電気回路演習	交流ブリッジ回路	
第17週	電気回路演習	Δ -Y変換	
第18週	電気回路演習	共振回路	
第19週	電気回路演習	相互インダクタンス	
第20週	電気回路演習	ベクトル軌跡	
第21週	電気回路演習	電力と力率	
第22週	電気回路演習	電力のベクトル表示	
第23週	電気数学	常微分方程式	
第24週	電気数学	常微分方程式	
第25週	電気数学	ベクトルの微分とベクトル微分演算子	
第26週	電気数学	ベクトルの微分とベクトル微分演算子	
第27週	電気数学	ベクトルの微分とベクトル微分演算子	
第28週	電気数学	多重積分、線積分、面積分と積分定理	
第29週	電気数学	多重積分、線積分、面積分と積分定理	
第30週	電気数学	多重積分、線積分、面積分と積分定理	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">環境工学概論 (Introduction to Environmental Engineering)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・前期・1 単位・必修 電気工学科・担当 藤井 治久</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>本科目は電気工学科の環境系科目の一環として、1 年で学んだ「環境リテラシ」を受け、5 年で学ぶ「環境エネルギー工学」、「環境エレクトロニクス」へとつなげていくための基礎知識を教授するものである。現在の私たちの豊かな生活は、エネルギー・資源の大量の消費によってもたらされて来たが、一方で環境の劣化を招き、地球規模の環境問題が深刻化している。このような状況を克服し、将来的に人類が持続可能な低炭素社会を構築して行かねばならない。そこには電気工学の役割貢献が期待されており、それに応えていくための基礎知識を教授する。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>まず、地球環境の現状と地球環境問題の本質を把握した上で、低炭素社会・循環型社会の構築に必要な技術を述べ、それらのベースになるエネルギーの諸概念とその基礎知識を教授する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>自主編纂プリントによる講義となるので、注意して講義を聴くこと。また、日頃から環境問題のニュースや情報に関心を持って、授業に臨んで欲しい。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境問題の本質を把握できること。 ・ エネルギーの形態やエネルギーの相互変換が理解できること。 		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験（80％）に加えて、課題レポート（20％）を総合して評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>なし。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>自主編纂プリントを配布する。</p> <p>「環境白書」・「エネルギー白書」、西岡秀三「低炭素社会のデザイン」（岩波新書） 向坊隆編「エネルギー論（Ⅰ）・（Ⅱ）」（岩波講座 基礎工学 18）、他</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>1 年 環境リテラシ、2 年 物理Ⅱ、3 年 応用物理Ⅰ、4 年 応用物理Ⅱ、 5 年 環境エネルギー工学・環境エレクトロニクス</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	地球環境の現状と地球環境問題	私たちの地球環境の現状と地球規模の環境問題について説明し、みんなで考える。	
第2週	エネルギーの過去と現在	人類がこれまでどのようにエネルギーを使ってきたかを説明する。	
第3週	エネルギーの基礎概念(I)	低炭素社会の構築にあたっては、エネルギーの概念の理解が必要で、各種エネルギーの形態とその特徴について述べる。	
第4週	エネルギーの基礎概念(II)	各種エネルギーの形態とその特徴について説明する。	
第5週	エネルギーの基礎概念(III)	熱力学の法則とエントロピーについて説明する。	
第6週	エネルギーの相互変換(I)	各種エネルギーの相互変換の概要について説明する。	
第7週	エネルギーの相互変換(II)	力学的エネルギーの関与する変換について説明する。	
第8週	エネルギーの相互変換(III)	熱エネルギーの関与する変換について説明する。	
第9週	エネルギーの相互変換(IV)	光エネルギーおよび化学的エネルギーの関与する変換について説明する。	
第10週	エネルギーの相互変換(V)	効率の概念について説明する。	
第11週	エネルギーの伝達・輸送	エネルギーの伝達・輸送に関わる基礎事項について説明する。	
第12週	エネルギーの貯蔵	各種エネルギーの貯蔵方式について説明する	
第13週	生活・社会が変わる	低炭素社会において、住宅・ビル、社会がどのようにスマートに変わっていくかを説明し、みんなで考える。	
第14週	循環型社会	循環型社会に必要な技術は何かを概説する。	
第15週	大気・水・土壌環境の保全	私たちを取り巻く大気・水・土壌環境を保全していくために必要な技術を概説する。	
前期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

電磁気学Ⅱ (Electromagnetics Ⅱ)	3 年・通年・2 学修単位・必修 電気工学科・担当 石飛 学	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>電磁気学の本を独学で読み進んでいけるよう、基本にある考え方を学ぶ。特に基本用語のもつ意味を理解し、数学(微積分とベクトル)を用いて相互の関係を表現できるようにする。“場”の考え方が少しだけでも身近になってくれたら嬉しい。また受け身ではなく“考える勉強法(負担を減らす勉強方法)”を再確認してほしい。今後学ぶ 回路やデバイスへの橋渡しとなる基礎理論の習得も行う。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>「電子工学」と並び“電気のなぜ”に迫っていく科目。まず、何のために電磁気学が必要か再確認するところからスタート。その後、3次元ベクトル解析や微積分の意味や使い方を確認しながら、電場や磁場の性質を学んでいく。また4年からの非正弦波を扱う回路系科目とリンクさせるため、回路的観点からキャパシタ、インダクタ及びトランスも確認する。時間に制約があるので、難しい積分を使った問題等、演習色が強い項目は演習科目に回す。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>舐めてかかれない積み上げ科目のため、後に残すと身動きが取れなくなる。特に次の勉強方法が通用しなくなると考えてよい。どうすれば良いかも授業を通して伝授していきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中板書の写しに専念し、後で読み返ししながら問題演習する方法 2) 定期テスト前などに問題演習を繰り返し、パターンを身に着ける方法 <p>1回1回を大事にし、その場で考え修得するよう努めてほしい。このような科目のため板書中心に行わず、可能な限り相互にやり取りしながら、みんなの疑問点に焦点を当てて進めていきたい。質問攻撃を望む。(口頭で“重要”と念押しする個所は特に大事。耳を使って!) ポイントは、基本用語や基本式をヴィジュアル的に理解できるかどうか、2年で習った数学が使えるかどうかにある。図書館等も使って積極的に他の参考書も活用し、とにかく疑問を後に残さないように。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 静電場の理解に必要な数学の確認、数学を用いた静電場の表現と計算 前期末試験： キャパシタ、定常電流 後期中間試験： 静磁場(磁石と電流、アンペールの法則、ビオ・サバールの法則、電磁力) 学年末試験： 電磁誘導、インダクタ、トランス、磁気エネルギー 以上の修得</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績(70%)とその他(小テスト、課題、授業態度等)(30%)の総合評価にて行う。 定期試験ごとの達成目標を各々クリアーすることで、単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「よくわかる電磁気学」, 東京図書, 前野昌弘 著 ← 困った時に調べる本ではなく、読んでいく本</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「新装版 電磁気学 その物理像と詳論」, 森北出版, 小塚洋司 著 「今度こそ納得する物理・数学再入門」, 技術評論社, 前野昌弘 著 「なっとくする物理数学」, 講談社, 都筑卓司 著 補助教材は適宜準備</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>電磁気学は電気工学の大黒柱。したがって、全ての電気系科目に連結する。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	何のために学ぶか？	電磁気などなくてもモノは作れるのではないかな？そもそも電磁気とは何を学ぶのか？などを解説。	
第2-3週	電磁気学Ⅰの復習	ベクトル基礎～ガウスの法則まで確認。電気力線と並べ電束も導入。基本用語とそのイメージの定着が目的。	
第4-5週	刻々と変化する量の扱い	これまで出てきた式を微分表示に。電場の勾配（1次元から3次元に、最後に ∇ ）。積分（線積分、面積分、体積積分）と内積の使い方を修得。	
第6週	ガウスの法則の微分形	電束の発散を通して、ガウスの法則（微分形）を理解。	
第7週	ポアソン方程式	ポアソン方程式とこれまでの確認演習を行う。	
第8週	ガウスの定理と法則	まず定期テストの結果をもとに勘違い点、ミスしやすい点を確認。次にガウスの定理と法則について解説。	
第9週	平行平板キャパシタ	これまでの復習にQ, E, Vとキャパシタ形状の関係を確認。	
第10週		静電誘導と誘電分極（誘電率、分極ベクトル）を理解。	
第11週		境界条件について解説。＋問題演習。	
第12週		静電エネルギーと電界エネルギー密度を確認。その後、平行平板以外への拡張を行う。	
第13週	定常電流	表皮効果等（詳細は後）例に挙げ、電流密度 $j = \rho v$ と分布について学ぶ。またオームの法則についても学ぶ。	
第14週		電荷保存の法則（キルヒホッフ第1法則）、保存場と非保存場（周回積分とキルヒホッフ第2法則）について解説。	
第15週	問題演習	問題演習を通して復習。	
前期期末試験			
第16週	電場と磁場の類似	定期テストの確認後、これから何を学んでいくか解説。電場と磁場の類似（E-H対応）から基本用語と単位等確認。	
第17週	磁場とは？	磁石を例に磁場と電流の関係、磁場が閉じていること、磁荷による考え方を学ぶ。磁性体、ヒステリシスにも触れる。	
第18-19週	アンペールの法則	アンペールの周回積分の法則と問題演習。	
第20週	ビオ・サバルの法則1	ビオ・サバルの法則（スカラー量で）と問題演習。	
第21週	電磁力と外積	電磁力とフレミング左手法則について解説。 $\sin \theta$ がなぜいるかにも触れながら、ベクトルの外積を学ぶ。	
第22週	導線同士に働く力	電磁力の問題演習とこれまでの復習。	
第23週	ビオ・サバルの法則2	まず定期テストの結果をもとに勘違い点、ミスしやすい点を確認。ビオ・サバルの法則をベクトルで表す。	
第24-25週	ローレンツ力と電磁誘導	フレミングの左手法則（電磁力）からローレンツ力を考える。また定常電流時の電場・磁場による力の釣り合い、レンツの法則を学ぶ。	
第26週	ファラデー・ノイマンの法則	ファラデー・ノイマンの法則を学ぶ（相対論的考え方）。	
第27-29週	インダクタとトランス	鎖交磁束、自己・相互インダクタンスを扱う。	
第30週	磁気エネルギー	磁気エネルギーと磁気エネルギー密度を確認。最後にマクスウェル方程式に繋げる。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）

電磁気学演習 (Exercises in Electromagnetics)		3 年・後期・1 単位・必修 電気工学科・担当 高橋 明・平井 誠	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標 (4)			
〔講義の目的〕 電磁気学ⅠおよびⅡで学んだ内容を演習により理解し、身に付けることを目的とする。			
〔講義の概要〕 電磁気学の代表的な基礎事項について簡単な講義および演習を行う。また演習は少人数のグループで行うので、多くの問題を解くだけでなく、自分の得た答えを他者に説明することにも取り組むこと。自分の考えを正確に伝え、他の学生と質疑応答することを通して、電磁気学に対する理解を深めると同時に、教員にも積極的な質問をすることで問題解決能力を養う。			
〔履修上の留意点〕 プリントの復習を欠かさずに行うこと。また、分からないことがあれば、簡単に投げ出さずに解決すること。レポート提出期限を必ず守ること。			
〔到達目標〕 電磁気学の基礎事項を理解すると共に、応用問題を解けるようにする。			
〔評価方法〕 定期試験（60 %）、課題レポート（40 %）により総合的に評価			
〔教科書〕 自作関連プリント配布の予定 〔補助教材・参考書〕 田原真人：『電磁気学がわかる』、技術評論社（2011）. 西巻正郎、関口利男 編集：『電気磁気学』、森北出版（2002）.			
〔関連科目〕 電磁気学Ⅰ、電磁気学Ⅱ、数学（微分、積分、三角関数、四則演算）			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第 1 週	クーロンの法則	クーロンの法則に関わる要点説明と問題演習	
第 2 週	真空中の静電界	真空中の静電界に関わる要点説明と問題演習	
第 3 週	導体系と静電容量	導体系と静電容量に関わる要点説明と問題演習	
第 4 週	電流による磁界	電流による磁気に関わる要点説明と問題演習	
第 5 週	電流による磁界	同上	
第 6 週	電磁誘導	電磁誘導に関わる要点説明と問題演習	
第 7 週	電磁誘導	同上	
第 8 週	電磁誘導	同上	
第 9 週	インダクタンスと磁気回路	自己インダクタンスに関わる要点説明と問題演習	
第 10 週	インダクタンスと磁気回路	相互インダクタンスに関わる要点説明と問題演習	
第 11 週	インダクタンスと磁気回路	磁気回路に関わる要点説明と問題演習	
第 12 週	インダクタンスと磁気回路	同上	
第 13 週	磁性体の磁化曲線	強磁性体の磁化に関わる要点説明と問題演習	
第 14 週	磁性体の磁化曲線	同上	
第 15 週	電磁波	変位電流に関する問題演習	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">電気回路Ⅱ (Electrical Circuits II)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・2 単位・必修 電気工学科・担当 土井 滋貴</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 電気回路Ⅰに引き続き、電気工学の基礎をなす交流回路について学ぶ。3 年次では特に、交流電力と三相回路を理解し回路計算できること、さらに、ひずみ波の基本的な取り扱いができることを目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 磁氣的結合回路の取り扱い方、周波数や各素子の値が変化したときの電圧、電流の変化を表すベクトル軌跡、単相電力について学ぶ。また、三相交流について理解し、三相回路の計算法について学ぶ。さらに、ひずみ波の基本的な取り扱い方法を学ぶ。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 2 年次に学習した電気回路Ⅰを理解していることが前提である。講義の中で適宜演習を行うが、回路計算を習得するには多数の問題を解くことが大切である。自ら多数の問題に挑戦してもらいたい。また授業での理解不足を感じた場合などは、オフィスアワーを利用するなど積極的に質問し理解に努めるようにして欲しい。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験：相互インダクタンスを含む回路の計算ができる。回路の電圧、電流、インピーダンス、アドミタンスのベクトル軌跡を描くことができる。 前期末試験：単相回路の電力計算ができる。最大電力供給の定理を理解する。力率改善について理解する。三相交流の基礎知識を習得する。 後期中間試験：平衡三相回路の計算ができる。V 結線を理解する。簡単な不平衡三相回路の計算ができる。 学年末試験：二電力計法を理解する。回転磁界の原理を理解する。のこぎり波や三角波などをフーリエ級数展開できる。ひずみ波交流の取り扱いを理解し、回路の電圧、電流、電力の計算ができる。</p>		
<p>〔評価方法〕 試験（定期試験、学力補充試験）（80%）、課題（10%）、授業への取り組み（教員の質問に対する応答や授業中の質問など）（10%）で評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「電気回路（1）直流・交流回路編」、コロナ社、早川義晴・松下祐輔・茂木仁博 〔補助教材・参考書〕 「補助教材：配布プリント」</p>		
<p>〔関連科目〕 履修前：基礎電気回路、電気回路Ⅰ、電気回路演習、電気磁気学Ⅰ、数学（微積分は必須） 履修中：電気工学演習、電気磁気学Ⅱ、計測工学 履修後：電気回路Ⅲ、電気機器工学をはじめとする専門科目全般</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	相互インダクタンス	相互インダクタンスについて解説し、交流回路での取り扱い方を説明する。	
第 2 週	相互インダクタンスを含む回路	相互インダクタンスを含む回路の解法、結合回路の等価回路について説明する。	
第 3 週	相互インダクタンスの演習問題	演習問題を解くことで、相互インダクタンスを含む回路の解法を身につける。	
第 4 週	ベクトル軌跡	ベクトル軌跡とは何かについて解説し、簡単なベクトル軌跡および逆ベクトル軌跡を求める。	
第 5 週	ベクトル軌跡の求め方	図的解法により回路の電圧、電流、インピーダンス、アドミタンスのベクトル軌跡を求める。	
第 6 週	ベクトル軌跡の演習問題	演習問題を解くことで、ベクトル軌跡の理解を深める。	
第 7 週	電力と力率	交流電力を解説し、有効電力、無効電力、皮相電力、力率の概念を理解する。	
第 8 週	電力のベクトル表示	電力をベクトルで表す方法を説明する。回路の電力計算の方法を理解する。	
第 9 週	最大電力供給の定理	最大電力供給の定理について説明し、例題を通して理解する。	
第 10 週	力率改善	力率改善とは何かについて説明する。関連する問題を解くことで理解する。	
第 11 週	交流電力の測定	三電圧計法、三電流計法による電力測定法について説明する。	
第 12 週	電力の演習問題	演習問題を解くことで、交流電力についての理解を深める。	
第 13 週	三相交流	対称三相交流とは何かについて学ぶ。三相起電力の発生と結合方式について説明する。	
第 14 週	Y 結線	Y 結線された平衡三相回路の相電圧、線間電圧、相電流、線電流の関係を理解する。	
第 15 週	Δ 結線	Δ 結線された平衡三相回路の相電圧、線間電圧、相電流、線電流の関係を理解する。	
前期期末試験			
第 16 週	演習問題	演習問題を解くことで、三相交流についての理解を深める。	
第 17 週	Y- Δ 回路	平衡三相回路（Y- Δ 回路）の計算方法を説明する。	
第 18 週	Δ -Y 回路	平衡三相回路（ Δ -Y 回路）の計算方法を説明する。	
第 19 週	演習問題	平衡三相回路の解法を理解する。	
第 20 週	平衡三相回路の電力	平衡三相回路の電力について学び、回路の電力計算の方法を理解する。	
第 21 週	V 結線	単相変圧器を 2 台用いて三相変圧を行う V 結線について説明する。	
第 22 週	不平衡三相回路	簡単な不平衡三相回路の計算方法を説明する。	
第 23 週	三相電力の測定	二電力計法、ブロンデルの定理について説明する。	
第 24 週	三相回路の総合演習問題	演習問題を解くことで、三相回路の復習を行う。	
第 25 週	回転磁界	回転磁界の原理を説明する。	
第 26 週	ひずみ波とフーリエ級数展開	ひずみ波が正弦波で合成できることを学ぶ。特に、ひずみ波を正弦波に分解する数学的手法であるフーリエ級数展開について説明する。	
第 27 週	フーリエ級数展開の演習問題	演習問題を解くことで、フーリエ級数展開の計算方法を理解する。	
第 28 週	ひずみ波交流の電圧と電流	回路にひずみ波交流を加えたときの回路の計算方法を説明する。	
第 29 週	ひずみ波交流の電力と等価正弦波	ひずみ波交流の電力の求め方、ひずみの少ない波形を等価正弦波として表す方法を説明する。	
第 30 週	ひずみ波の演習問題	演習問題を解くことで、ひずみ波についての理解を深める。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">コンピュータハードウェア (Computer Hardware)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・前期・1 単位・必修 電気工学科・担当 土井 滋貴</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 デジタル回路、マイクロコンピュータのハードウェアについて学習する。</p>		
<p>〔講義の概要〕 前半はデジタル回路、後半はマイクロコンピュータのハードウェアについて学ぶ。プログラミング言語にはC言語を使用する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 数学的な取り扱いが多いが、何を求めているかを常に念頭に置き、復習する事が大切である。授業中に理解する努力をし、積極的に質問や発言ができるようにする事。ノートを上手にまとめる事が理解につながる。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験： マイクロコンピュータを構成するデジタル回路の基礎事項を習得する。 前期末試験： マイクロコンピュータのハードウェア基礎を習得する。</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績 70% に演習点 20%、授業態度点(ノート作成等)10%を含めて総合評価する。定期試験ごとに提示する達成目標を各々クリアする事で単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕 自作の教材</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕 プログラミング、等 数学的な取り扱いが多いが実際の動作を考えながら、勉強してほしい。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第 1 週	基礎事項	マイクロコンピュータの基礎事項解説	
第 2 週	デジタル回路	マイクロコンピュータの回路について学ぶ	
第 3 週	システムバス	バスシステムについて学ぶ	
第 4 週	アドレス	バスシステムについて学ぶ	
第 5 週	C P U	CPU について学ぶ	
第 6 週	CPU の内部構造	CPU について学ぶ	
前期中間試験			
第 7 週	バスタイミング	CPU について学ぶ	
第 8 週	パラレル・IF	周辺について学ぶ	
第 9 週	インターフェース回路	周辺について学ぶ	
第 10 週	プログラミング法	IO プログラミングについて学ぶ	
第 11 週	シリアル・IF	シリアル通信について学ぶ	
第 12 週	プログラミング法	外部制御プログラミングについて学ぶ	
第 13 週	A/D、D/A 変換回路	A/D、D/A 変換について学ぶ	
第 14 週	マイクロコントローラ	AVR マイクロコントローラについて学ぶ	
第 15 週	マイクロコントローラ	AVR マイクロコントローラについて学ぶ	
前期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

電子工学 (Electronic Engineering)	3 年・通年・2 単位・必修 電気工学科・担当 藤田 直幸	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>本科目は、電子物性、電子デバイス、電子回路系の導入科目として、位置づけられる。前半では、電子を主役とした物理現象について基礎的な事項を理解すること、後半では半導体デバイスの基礎を理解することを目的に講義を行う。講義では、物理現象の定性的な理解を目指すため、物理現象をモデル化して理解する力の育成も目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>電子の性質、原子の構造と電子、物質の性質と電子、バンド理論、p n 接合、半導体中の電気伝導、トランジスタの基本原理解などについて、数式を使わずに定性的に学ぶ。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>電子物性、電子デバイス、電子回路系の導入科目として位置づけられる科目なので、意欲的に新しい概念の習得に努めて欲しい。</p> <p>予習・復習の課題を与え、適宜ノートチェックを行う。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：電子の性質、物質の 2 重性、ボーアの原子モデル、価電子と元素の周期律について理解する。</p> <p>前期末試験：バンド理論の基礎、半導体の基礎、半導体の導電現象について理解する。</p> <p>後期中間試験：フェルミ準位、p n 接合について理解する。</p> <p>学年末試験：バイポーラトランジスタ、MOS-FET について理解する。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験（80％）、宿題（予習・復習）など（20％）とし、定期試験ごとに提示する達成目標を各々クリアする事で単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>プリントを配布して講義を行う。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「基礎半導体工学」 朝倉書店、國岡昭夫・上村喜一</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>本科目は、電気材料や半導体工学の基礎となる科目である。</p> <p>また、電子回路や電力制御工学で学習する電子デバイスについても本科目で学ぶ基礎が役に立つ。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	電子工学の位置づけ	講義の概要、電子工学の位置づけについて説明する。	
第2週	電子と原子（1）	電子の性質	
第3週	電子と原子（2）	前期量子論（光の2重性）について学ぶ。	
第4週	電子と原子（3）	ボーアの原子モデルについて学ぶ。	
第5週	電子と原子（4）	ボーアの原子モデルについて学ぶ。	
第6週	電子と原子（5）	価電子と元素の周期律について学ぶ。	
第7週	バンド理論の基礎（1）	エネルギーバンドが形成される理由について学ぶ。	
第8週	バンド理論の基礎（2）	バンド図を用いた物質の電氣的性質の説明について学ぶ。	
第9週	半導体の基礎（1）	半導体の種類とホールについて学ぶ。	
第10週	半導体の基礎（2）	不純物半導体のキャリアについて学ぶ。	
第11週	半導体の基礎（3）	真性半導体のバンド図について学ぶ。	
第12週	半導体の基礎（4）	不純物半導体のバンド図について学ぶ。	
第13週	半導体の基礎（5）	不純物半導体のバンドの温度依存性について学ぶ。	
第14週	半導体の導電現象（1）	ドリフト電流について学ぶ。	
第15週	半導体の導電現象（2）	拡散電流について学ぶ。	
前期期末試験			
第16週	フェルミ準位（1）	フェルミ準位とは何か学ぶ。	
第17週	フェルミ準位（2）	真性半導体のフェルミ準位について学ぶ。	
第18週	フェルミ準位（3）	不純物半導体のフェルミ準位について学ぶ。	
第19週	フェルミ準位（4）	不純物半導体のフェルミ準位の温度変化について学ぶ。	
第20週	p n 接合（1）	p n 接合の概略について学ぶ。	
第21週	p n 接合（2）	p n 接合のエネルギーバンド図について学ぶ。	
第22週	p n 接合（3）	p n 接合の電流－電圧特性について学ぶ。	
第23週	p n 接合（4）	p n 接合の電流－電圧特性について学ぶ。	
第24週	トランジスタ（1）	トランジスタの基本構造と等価回路について学ぶ。	
第25週	トランジスタ（2）	トランジスタの等価回路とベース接地の特性について学ぶ。	
第26週	トランジスタ（3）	ベース接地の静特性について学ぶ。	
第27週	トランジスタ（4）	エミッタ接地の静特性について学ぶ。	
第28週	MOS-FET（1）	MOS-FET の構造と動作について学ぶ。	
第29週	MOS-FET（2）	MOS-FET の特性について学ぶ。	
第30週	トランジスタまとめ	p n 接合トランジスタと MOS について総合的に学ぶ。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

計測工学 (Instrumentation Engineering)	3 年・通年・2 単位・必修 電気工学科・担当 芦原 佑樹	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>計測に関する基礎知識を理解し、電気・電子計測に用いられる計器の原理及び使用方法を習得することを目的とする。計測技術の進歩に伴い、これまで多くの計測機器が生まれ、多くの機器が消滅している。このように機器が刷新されていく背景には、それなりの合理的な理由がある。本講義では、単に暗記を行うのではなく、計測方法の背景に流れる哲学を読み解くことにより、電気技術者として必要となる素養を身につける。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>前期講義では、計測の基礎として測定データの処理及び電圧、電流等の測定方法について解説を行う。後期講義では波形と周波数の測定、磁気測定、雑音計測などについて解説する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>繰り返すが、暗記科目ではない。計測手法の本質を読み解き、理解することを心がけること。電磁気学、電気回路との関連項目が多いので、これら関連科目を習得していることが望ましい。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 測定誤差、測定値の処理方法の理解 前期末試験： 基本的な電気計器の原理、電圧・電流計測、抵抗の測定 後期中間試験： インピーダンスの測定、電力量の測定、磁束・磁界の計測 学年末試験： 波形の観測、位相の測定、デシベルの理解、雑音計測</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験（80％）、課題（20％）として評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「電気・電子計測 [第3版]」、森北出版、阿部武雄・村山実。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>配布プリント</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>電磁気学、電気回路、電気機器工学、アナログ回路</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	計測の基礎	計測工学の考え方	
第2週	測定誤差(1)	精度と誤差	
第3週	測定誤差(2)	最小二乗法, ラグランジュ補間	
第4週	測定誤差(3)	誤差の伝搬, 丸め誤差, 有効数字	
第5週	電気単位	SI単位系	
第6週	標準器	各種標準器	
第7週	問題演習		
第8週	指示電気計器(1)	指示電気計器の分類, 計器の3要素, 温度補償回路	
第9週	指示電気計器(2)	可動コイル形・可動鉄片形・電流力計形・整流型計器	
第10週	指示電気計器(3) 測定範囲の拡大	熱電形・静電型・誘導形・比率形型計器, 分流・分圧器, 変成・変圧器	
第11週	電位差計	直流電位差計, 直流比較形電位差計	
第12週	大電流・高電圧	ホール素子による測定, クレーマ式直流変流器,	
第13週	特殊な測定	ファラデー素子による変流器, ロゴスキーコイル	
第14週	電力(1)	有効電力, 3電流・3電圧法, 3相電力, ブロンデルの法則	
第15週	問題演習		
前期期末試験			
第16週	電力(2)	無効電力, 電力量, 力率の測定	
第17週	抵抗(1)	中抵抗, 低抵抗の測定	
第18週	抵抗(2)	高抵抗, 絶縁抵抗, 接地抵抗の測定	
第19週	インピーダンス(1)	交流ブリッジ	
第20週	インピーダンス(2)	LCRメータ, Qメータ	
第21週	磁束・磁界	磁束・磁界の測定, 核磁気共鳴吸収, 磁気変調器	
第22週	磁化特性の測定	磁化特性, 鉄損, ヒステリシス曲線	
第23週	問題演習		
第24週	周波数・時間(1)	原子周波数標準器, 標準信号発生器, デシベルの考え方	
第25週	周波数・時間(2)	ヘテロダイン周波数計, 位相の測定, リサージュ図形	
第26週	デジタル計器	A/D変換, 標本化定理, 量子化	
第27週	マイクロ波	マイクロ波インピーダンス, スミスチャート, マイクロ波電力	
第28週	波形	オシロスコープ, スペクトラムアナライザ	
第29週	雑音	雑音の種類, 雑音指数, 熱雑音, ショット雑音	
第30週	問題演習		
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">電気・電子工学実験Ⅱ (Experiments on Electrical and Electronic EngineeringⅡ)</p>	<p style="text-align: center;">3年・通年・3単位・必修 電気工学科・担当 小坂 洋明・土井 滋貴 小野 俊介・池田 陽紀 木村 健</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 実験を通して電気工学の諸概念や講義で学んだ理論の内容を実際に体験し、理解を深める。また、測定機器の操作方法や測定技術を習得する。さらに、自ら実験計画を立て安全に実験を行う態度を養う事を目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 実験テーマは、回路・デバイス系、電力・測定系、コンピュータ系に分かれる。それぞれ、回路の製作、三相電力の測定、ラダー言語を使ったシーケンス制御などの実験を行う。これらにより、電気・電子工学の基礎的内容の理解が深まる。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 学生は、ガイダンスで配布されたテキストを予め熟読し、目的、実験方法、結線の仕方等を考えておく。また、実験結果を記録するデータシートの準備も忘れないこと。</p>		
<p>〔到達目標〕 休まず実験に積極的に参加すること。実験中は自分の行った実験内容をよく理解し、必要なデータなどは全て記録した上で、指示に従い十分な内容のレポートを作成すること。全ての実験レポートを遅れることなく提出すること。</p>		
<p>〔評価方法〕 全てのレポート提出（40%）、レポート評価（40%）、実験への取り組み（20%）で総合評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 配布実験テキスト</p> <p>〔補助教材・参考書〕 基礎電気回路、電気回路Ⅰ・Ⅱ、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、デジタル回路、電子工学の教科の教科書・資料。</p>		
<p>〔関連科目〕 基礎電気回路、電気回路Ⅰ・Ⅱ、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、デジタル回路、電子工学</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	前期実験用テキストの配布と実験にあたっての諸注意	
第2週	前期実験テーマ①	シーケンス制御の基礎	
第3週	〃	〃	
第4週	前期実験テーマ②	モーターの特性①	
第5週	〃	〃	
第6週	前期実験テーマ③	モーターの特性②	
第7週	〃	〃	
第8週	前期実験テーマ④	ロボット	
第9週	〃	〃	
第10週	前期実験テーマ⑤	整流回路の実験	
第11週	〃	〃	
第12週	前期実験テーマ⑥	演算増幅回路の実験	
第13週	〃	〃	
第14週	予備日	追実験や病気等で当該週に実験できなかった学生を指導する	
第15週	レポート指導	前期提出レポートの最終チェックと指導	
前期期末試験			
第16週	ガイダンス	後期実験用テキストの配布と実験にあたっての諸注意	
第17週	後期実験テーマ①	組立生産ライン	
第18週	〃	〃	
第19週	〃	〃	
第20週	〃	〃	
第21週	後期実験テーマ②	単相変圧器の特性	
第22週	〃	〃	
第23週	後期実験テーマ③	トランジスタの静特性	
第24週	〃	〃	
第25週	後期実験テーマ④	三相電力の測定	
第26週	〃	〃	
第27週	後期実験テーマ⑤	論理回路	
第28週	〃	〃	
第29週	予備日	追実験や病気等で当該週に実験できなかった学生を指導する	
第30週	レポート指導	後期提出レポートの最終チェックと指導	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)